

徳之島事務所（令和8年3月分）管内情勢

農林水産業関連

1 たんかん幼木の着果が始まり、生産量が年々増加中

2月19日、25～27日に徳之島町及び天城町にて、たんかんの成木及び幼木栽培講習会を開催し、生産者・関係者計62人が参加した。

成木では、1月上旬以降の低温の影響により落葉している樹が見られることから、萌芽後の窒素系液肥の葉面散布を指導し、整枝・せん定方法については実演を行った。また、幼木では、定植前の土壌診断や土づくり、定植直後の整枝方法などについて指導を行った。数年前に植えた樹の着果が始まっていることから、生産量が年々増加しており、当課では次年度産に向けた指導を継続していく。

2 令和8年産マンゴーの出蕾はばらつきが大きい

3月3～5日に徳之島町・天城町・伊仙町にて、マンゴー栽培講習会を開催し、生産者・関係者計37人が参加した。

多くの園地で出蕾している枝と出蕾していない枝が混在しており、出蕾している枝でも通常より短く正常でない花穂が見られる。原因は2月上旬の低温による影響を受けたものと思われる。

当課では生産安定に向けた栽培管理について指導していく。

3 パッションフルーツの開花始まる

3月6日に天城町にてパッションフルーツ栽培講習会を開催し、生産者・関係者計23人が参加した。

2月中旬以降の気温が高く、晴天日が多かったことから、一部ハウスで3月上旬から開花が始まった。講習会では整枝・せん定のタイミングや施肥方法、青落ち果対策などについて指導した。

また、実証段階ではあるが、新たな整枝方法である棚仕立ての

方法や長所・短所についても紹介した。今後は棚仕立ての生育特性や作業性、単収などを調査し、地域に適するか検討していく。

4 ピタヤ幼木の着果が令和7年産より始まり、生産量が年々増加

3月11日に伊仙町にて、ピタヤ幼木栽培講習会を開催し、生産者・関係者計10人が参加した。

会では、かん水の必要性や鳥害対策、葉状茎の整枝方法などを指導した。また、参加者の中には令和8年産から本格出荷が始まる生産者もあり、人工授粉の方法や収穫作業の注意点などについても指導した。

数年前に植えた樹の着果が令和7年産より始まり、生産量が年々増加することから、当課では次年度産に向けた指導を継続していく。

4 セグロウリミバエの定着及び被害発生を防ぐために

当地域では、セグロウリミバエに対して関係者一体となって定着防止に向けた取組が行われているものの、現在も誘殺が続いており、今後の気温上昇に伴い誘殺数の増加が懸念される。

この状況下で、園芸振興協議会徳之島支部では、ウリ科作物（かぼちゃ及びニガウリ）の経済栽培を行う生産者に対して、農薬散布指導を徹底するなど、被害を未然に防ぐ取組を行っている。

本虫に関しては、「家庭菜園」への対応が重要であるため、パンフレット等を用いた啓発活動の継続が必要である。